

平成25年度 第3回府中市在宅療養環境整備推進協議会 会議録

1 日 時：平成26年3月27日（木）午後6時～午後7時30分

2 会 場：府中市役所北庁舎3階 会議室

3 出席者：〈委員〉

篠崎副会長、松尾委員、米田委員、長瀬委員、櫻井委員、松本委員、鈴木委員、山岡委員、宮田委員、清野委員、中山委員、森委員、岡本委員、正木委員

〈事務局〉

（福祉保健部）

芦川福祉保健部長

（高齢者支援課）

川田福祉保健部次長兼高齢者支援課長、

安齋地域支援統括担当主幹兼施設担当主幹、浦川課長補佐、

石谷包括ケア担当主査、藤井保健師、江村保健師

（健康推進課）

福田健康推進課副主幹

4 欠席者：太田会長

5 傍聴者：2名

6 議事前

（1）開会

本日はご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

ただ今から、第3回府中市在宅療養環境整備推進協議会を開催させていただきます。

事務局から委員の欠席につきまして、会長の太田委員から欠席の連絡をいただいております。

なお、本日の開催につきましては、当協議会の設置要綱第6条第二項に基づき、15人の委員の内、14人の委員にご出席をいただいております。過半数に達しているため、本日の協議会は有効に成立しておりますことを合わせてご報告申し上げます。

本日、会長がご欠席ですので、副会長の篠崎委員に会議の進行をお願いしたいと存じます。よろしくお願いたします。

続きまして、本日傍聴を希望されている方が2名お見えでございます。傍聴の許可につきまして、当協議会の判断を頂きたいと存じます。

傍聴の許可、傍聴者の入場

7 議事事項

(1) 在宅療養に関する地域資源調査について（中間報告）

篠崎副会長 事務局より報告をお願いしたい。

事務局 資料1をご覧いただきたい。

前回の協議会にて、地域資源調査の調査票をご協議いただいた。この度、地域資源調査を実施したため、その結果の中間報告をさせていただきます。

目的としては、地域の在宅療養の資源を把握し、高齢者に医療的ケアが必要となった場合に、在宅療養スタッフに的確に提供、調整できるようにする基礎資料を作成するための調査である。対象は市内の診療所・病院、歯科医療機関、薬局、訪問看護ステーションとなっている。医療機関には別紙の調査票を1月下旬～2月中旬にかけて、送付し、調査を実施した。調査票は協議会で協議した以降に作成したものになる。3師会については、会を通じて送付させていただき、感謝申しあげる。その他の医療機関については、郵送にて送付している。

回収率・結果等については、資料1の5・6のとおり。

その他、ケアマネタイムを診療所・病院以外の医療機関についても記入をお願いした。ケアマネタイムを不可とする医療機関が診療所7件、歯科医療機関8件、薬局5件、訪問看護ステーション0件であった。ケアマネタイムの周知の点でご理解いただけていない医療機関もあると考えている。今後、連携を行っていく上では、医療機関にケアマネタイムの存在を知って頂きたいと考えている。

回答いただいた調査票はデータとして保存させていただいた。今後、調査票の太枠についての情報を冊子にまとめて、関係機関に配布する予定。全ての情報については、市の相談部門と、包括支援センターにて活用していく予定。また、一度、データのことを各医療機関に送付し、修正が無いか確認していく。

篠崎副会長 今回は中間のまとめということであるが、本日の報告について何か質問はあるか。

森委員 ケアマネタイム不可ということは、欄の中に不可と書いてあったのか、空欄だったのか

事務局 ×がついていたところと、空欄のところもあった。

篠崎副会長 ×ということが「ケアマネタイムを設けていない」というものなのか、「ケアマネタイムを設けない」という意思表示なのかは不明である。

事務局 直接どのような意図かどうかの確認はしていない。

宮田委員 公表する情報等は別に、例えば、看取りを実施している医療機関の結果について、件数の分布等についての分析をする予定はあるか。

事務局 見た印象では、やっているところと、やっていないところの差がある。数の集計をしていきたいと思う。

松尾委員 診療所について、医師会に加入している医療機関以外も含めた全ての府中市の診療所ということか。

事務局 今回、医療機関については、保健所から届出を行っている医療機関のデータを頂き、送付している。診療所については、特別養護老人ホームや、学校の健康管理室等も選別することなく、全ての医療機関に送付している。元々、該当しないと思っている医療機関からは返信が有る所と無い所があった。しかし、「在宅を行っていないので、回答しません」といった連絡を頂いたこともあった。そのように、在宅療養を行っていない理由で回答していない医療機関もあるものと推測はしている。

松尾委員 回収率の中で、眼科や耳鼻科の診療所の回収率が少なかった、ということはあるか。

事務局 そこまでは分析していないが、今後確認していく。

米田委員 歯科医療機関の回収率が84%だったが、歯科医師会未加入の半分が回答していないということか。

事務局 歯科医師会加入者は97～98%程度ご回答いただいている。未加入者については、ほぼ半数の回収率であったと思う。

篠崎副会長 今後、詳細をまとめてくれるとは思いますが、その他要望等はあるか。回収率は100%ではないが、回答いただけてない医療機関を今後どのようにしていくのかを知りたい。回答のない医療機関の情報がないということは、相談に活用する際にもったいないと思うが。

事務局 在宅に関わっている医療機関については、今後、電話等で回答を促していきたいと思う。それでも回答なければ、次回の調査時ということにしたい。

篠崎副会長 もう一度、回答を促していくということで、もう少し回答医療機関が増えることが予想される。

山岡委員 前回の協議会の際、その後の更新はどうしていくのかといった話がされたと思うが、今回の調査時に対象者へ明記していたりするのか。

事務局 随時の更新は連絡を貰った際に元のデータを修正することを考えている。また2年に1回程度は継続していこうと思っている。そこで新たな調査票を考えている。

篠崎副会長 詳しいデータ等、まとめ次第、話し合えればと思う。

(2) 在宅療養ミニシンポジウムについて (報告)

篠崎副会長 それでは、ミニシンポジウムについて、事務局より報告をお願いしたい。

事務局

資料2をご覧頂きたい。平成25年度府中市在宅療養環境整備推進事業ミニシンポジウム「医療と介護の連携で、高齢者の在宅療養を支える！」につきまして、報告させて頂く。

1月23日(木)に開催した。シンポジスト、参加者、講演内容については資料のとおり。

シンポジストからの講演の後、ミニシンポジウムを開催した。参加者とシンポジストとの意見交換会を実施した。近年、在院日数が短くなり、医療が介護の現場に入るようになってきている。病院での医療を在宅療養で行うのではなく、その人の在宅での医療をどうやって支えていくかを考える必要があるといった話が出た。また、「死」というテーマが出たが、「死」はそれぞれ大事にしているものが違うため、「死」を迎えることについての対応が難しくなることもある。なるべく幅広い選択肢を持って、死を受け入れられることが在宅療養に取り組む上で、また、多職種連携を行っていく上でも重要であるという話が出た。

アンケート結果報告については裏面の6のとおりであるが、「よかった」と回答した方がほとんどであった。感想からも、今回、それぞれの医療の立場をご紹介いただき、死について考えることが出来た、と言った意見や、多職種での研修会が重要であるという意見を頂いた。また、大多数の方が今後の研修を希望している様子であった。その他の感想については、資料を参照して欲しい。

宮田委員につきましては、シンポジストとして出席していただき、感謝申しあげる。また、当日出席していただいた委員の皆様からご感想等おしえていただければ有り難い。

篠崎副会長 参加者も多く、会場も盛り上がったのではないかと思うが、シンポジウムに参加した方、ご感想などあればお願いしたい。

清野委員 とてもよかった。残念だったのが、ヘルパー、訪問看護師等がサービス提供時間だったので、その方々が出られるような時間帯にしておくことで、双方向の情報交換ができるようなシンポジウムができれば良いと思った。

山岡委員 ヘルパーが15人であったのが残念。シンポジウムを開催した時間帯であっても、集団指導であれば全事業者が集まる。もう少し、この大事さや、みんなの意識があがれば参加したい気持ちになると思う。アプローチ方法の工夫を考えていく必要があると思った。講演自体はとても良かったと思う。

鈴木委員 とても良い講演だった。死というものに、私たちは、後どれくらいしか生きられないと考えるのを、残された時間をどうやって暮らしていくかということを考えるいい機会となった。

宮田委員 時間や準備の関係もあると思うが「医療と介護の連携」ということであれば、介護職からの発表があり、双方とやり取りする時間があったのも良かったのではないかと思った。これを一回目とするならば、今後は介護者からの発信や、質疑応答に重点を置いた会になるといいのかな、と思った。「こんなことを聞いていいのか」「こういう時は、どうしたらいいのか」「どう伝えていったら上手くいくのか」等、実務レベルでの会ができたらいいな、と思った。

篠崎副会長 在宅療養の普及啓発ということで、このシンポジウムは初めての取り組みであったと思う。これについては、次年度も継続して行っていくことであるが、その他、次年度に向けてのご意見等があれば伺いたい。

米田委員 かなり大勢の方が集まられているが、医師・歯科医師・薬剤師がどの位出席できたのか。今後、医療系の方も出席できるような時間帯に出来ればと思った。

事務局 内訳については、訪問看護師が6名ということで、それ以外の医療機関の出席は無い。今回のミニシンポジウムは事務局で考え開催したものであるが、当初は介護職の医療に対する敷居が高く、医療側の目線で介護職の方にどのように関わっていけば良いのかをお話いただき、少しでも医療に対する敷居を下げたいという思いから始まり、医療側からの発信を目的に開催したため、特に医療機関への発信は行わなかった。よって、介護支援専門員や訪問介護が主な参加者となった。今後は双方が出席でき、そこで意見交換ができるような研修が必要と感じている。

篠崎副会長 開催のテーマがあると思う。またそれに合わせてといった形になるだろう。

(3) 在宅療養を支える100人の集い in Fuchu について (報告)

篠崎副会長 事務局より報告をお願いしたい。

事務局 資料3をご覧いただきたい。2月22日(土)17時~19時、多摩総合医療センター会議室にて、多摩総合医療センターの在宅医療緩和ケアカンファレンスとの共催で実施した。

参加者の内訳については、資料のとおりとなっており、医療職と介護・福祉職が約半数ずつという割合で実施することができた。

内容は、ワールドカフェ方式でのグループトークで、会の流れについては、6ページのとおりとなっている。オープニングでは、それぞれの協議会のメンバーから、在宅療養や人の一生をテーマとした写真を提供していただき、スライドショーとして流した。グループについては、医療職と介護・福祉職の方の両方が入るように、受付で配慮させていただいた。オープニングの後、ワールドカフェについての説明

を実施し、テーマを発表した。テーマは「在宅療養を支える 聞いてみよう話してみよう」ということで、多職種が話に参加できる内容とさせていただいた。ユニットごとにカフェマスターを配置し、5名がそれぞれのユニットを担当した。第1ラウンドでは、自己紹介から始まり、フリートークを行った。初対面の方も多かったが、かなり盛り上がり、話をされていた。自己紹介も含めた関係で、第1ラウンドの時間が短かったという感想もあった。今回、テーブル名には冬季オリンピックの開催都市の名前を使わせていただいた。机の上には白の模造紙を置き、話している内容を、自身で書き留めたり、メモ代わりに使っていた。落書きに使ってくださいとご案内したが、たくさん書いてくれるところと、話に熱中してしまうグループがあった。カフェマスターが再度ご案内したり、飲み物を入れるお手伝いをさせていただいた。第2ラウンドでは、各テーブルに1名だけを残して、他3名は他のテーブルに移動した。それぞれのテーブルの新しいメンバーで、同じテーマでグループトークを行った。同じテーマであったが、もとのテーブルでどの様な話を行ったかを紹介し、新たな話をした。第3ラウンドでは、元のテーブルに戻り、第2ラウンドで話した内容を持ち寄り、話をした。次に、ワールドカフェの振り返りということで、ワールドカフェの発見や感想等、自由に色紙に書いていただいた。その感想をテーブルの上に置き、10分程度カフェ巡回を行った。その後、参加者よりワールドカフェの感想をいただき、集合写真を撮り、エンディングとなった。

ワールドカフェの実施後のアンケートについては、資料3の5のとおりとなっている。参加してよかったという意見を沢山頂いた。時間について、それぞれのラウンドでの時間が足りなかった、という意見を頂いた。今回のワールドカフェの感想では、今まで話せなかった医療機関の先生方と話ができて、介護職からの喜びの声が聞かれた。また、ワールドカフェの手法が役割を決めずに、発表もなく自由な意見交換をするということで、リラックスして参加することが出来た、と好評であった。今後また参加したいと回答していただいた方が殆どで、テーマについても、ターミナル、困難事例、認知症、連携、在宅医療、在宅療養を話したいという意見が多かった。今回は在宅療養という幅広いテーマとしたが、テーマを絞ってという意見もあった。多職種が集まったのグループトークは初めての試みであったが、これを通じて、市役所としても、医療機関や事業所、医師とも垣根が低くなったと感じている。こうした会を継続して行きたいと思うと共に、皆様からもご意見をいただければと思っている。

また、開催に当たって、出席・お手伝いいただいた在宅療養のメン

バーの方の実施後アンケートについては、資料3-2となっている。今回、準備の時間が足りなかったということについては、反省点である。しかし、このような会を持つことは有意義であった、との意見も頂いている。また、この様な会をワールドカフェ形式でも良いし、他の形でも良いので、継続した方が良いという意見を多数頂いている。

篠崎副会長 短い準備期間の中で、事務局の方々も打ち合わせ等大変であったと思うが、準備打ち合わせ大変であったと思うが、皆さんの感想が良くて、成功ではないかなと思う。ワールドカフェについて、何か感想や質問はあるか。

米田委員 今回、色々な職種の方の話を聞くことができ、自分は歯科医師の立場から、在宅療養で何が出来るかということで、特に口腔ケアのことを話した。歯科医師は2名だけであったが、とにかく口腔ケアをしっかりやることで、全身の健康を維持していこう、という話をさせていただいた。皆さんと、口の中をとにかく綺麗にして、誤嚥性肺炎を含む様々な病気を悪化させないことが大切であるという話をした。介護職の方が、こちらの敷居が高いということで、そのようなことが無いよう、うまく連携とれるよう、歯科医師会としても検討していきたいと思う。

鈴木委員 準備から関わっているが、準備の段階では時間が足りなくて、最後の時間となっても、本番は大丈夫かと心配に思っていたが、当日は皆、話ができている。ケアマネジャーとして、医師の話を聞く際、緊張してしまい、実際聞きたかったことが聞けない等思っていたが、このような機会に色々な考え方や、先生方の本音が聞けたので、もっと機会があれば、気持ちの通じる関係が出来るのではないかと思った。ケアマネジャーの中でも、参加した方が今回とても楽め、良かったという感想が聞けたので、成功だったのではないかと思った。

松尾委員 準備では関わらず、当日もギリギリでの参加となってしまったが、まず、第一の感想は、顔の見える関係は色々な分野で大切なことであるが、それが出来たことは、第一歩であると感じた。なぜ第一歩かというと、今回約80名が集まったが、ワールドカフェ方式で色々なグループにて顔合わせは出来たが、全体では出来たわけではない。それは、1回では無理なことであるので、2回3回と続けていくことが大事であると思った。

櫻井委員 最後の第3ラウンドから参加させていただいた。第1・第2ラウンドが分からない状態のまま、第3ラウンドからとなると、どう行えばよいのか、少し戸惑った。しかし、会自体はとても良い雰囲気、参加された医師会の先生も、非常に楽しかったし、有意義だったと、特に会長から意見があった。それを会員の先生に流して行く事で、医師

会の方もそのような場に出て行くような環境ができるのではないかと思います。今度、症例検討会を井手医師が行うということもあり、だんだん少しずつ、急に全ては無理なことであると思うが、繋がっていけばいいのかなと感じた。

正木委員 受付でお手伝いさせていただいた。その後、中に入り雰囲気を見させてもらった。お菓子とお茶の力を感じ、とても和やかであると感じた。府中にずっと住み、病院だけが最後の場で無いということが進んでいくことに期待感を持った。

松本委員 ワールドカフェのスタイルがどの様なものか分からなかった為、とりあえず準備から参加してみようと思い参加した。準備はとても慌しく、本当に出来るのかと思い、当日のスタートも慌しかったが、やってみると結構出来ていて、それがワールドカフェのスタイルで、良い点であると思った。

前回のミニシンポジウムも、研修会も良いが、色々な職種の方と話が出来るのは、とても有意義であった。私たちも薬剤師としては薬や病気しか見ていなかったが、在宅で療養されている方は、電球が切れただけでも大変だという話を聞くことができ、また、同じ薬剤師会の仲間の中でも、在宅療養のことを考えているという情報を得ることができ、有意義であった。

中山委員 準備から参加させていただいた。会社から5名職員が出席した。終了後、出席者に何度か確認をしたが、アンケートのとおり、楽しかったという話を全員から聞いたということでは、非常に成功に終わったという証拠であり、私個人も楽しかったという感想しかない。あっといふ間の2時間だった。また、支援者側の顔の見える関係性が、継続がどの程度のスパンで出来るかという課題はあるが、継続することで支援者側も幸せになれるし、家族や本人にも幸せが訪れる日が来れば良いと思う。

山岡委員 準備から参加できたり出来なかったりであったが、ばたばたと思いつつも、終わってみれば良かったな、という感想。先程のミニシンポジウムと同じであるが、訪問介護の参加者が少なかったのが残念に思う。もう少し、今回は案内が郵送で送られてきたが、周知を上手く出来たらと思った。自分は、2クールとも知っている方がおり、あまり新しい方と話が出来なく残念であったということはあるが、様々な話が出来た。会を重ねるごとに、先生方も良かったという感想が多ければ、今後参加も増えてくるのではと思う。

また、最初の雑談の時間も大切であると思う。今度はあの先生と同じグループになりたいな、と思ったりするかもしれない。続けることが大事だと思う。ある程度関係が出来たら、在宅療養の環境を整備す

るにはどうしたらいいかという、皆の方向性がある程度まとまっていくような考えを皆が持つことが大切であると思うが、まずは関係性を作ることが大切。

清野委員 包括支援センターの職員が各センター1名ずつ程度の出席しかなく、これから在宅をきちんと行っていくなれば、包括支援センターの職員が、もっと出席した方がよかったなと思った。

森委員 当日出席できていないが、正木委員や中山委員の話を聞いて、医療と介護がお互いに、という話が進んでいるが、その先の本人や家族がどういう思いを持っているのかといったことも考えていかなければならないと思う。

松尾委員 櫻井委員からの話もあったが、医師会の理事が6名出席し、これは、約半数の理事が出席したことになる。特に会長から楽しめたという話があり、今後、医師会会員に普及すればより良いと思う。

100人の集いのベースになっているのは、緩和ケアである。芝医師がやられている緩和ケアを今後、どう進めていくのかも一つであるが、今回、協働で動いたが、がんを含めた緩和ケアは少し一線上の部分で、在宅だけではない難しいところがある。多職種間の協力をどの様にして行くのか、どのように皆さんが入っていけるのかを考えていく必要がある。

宮田委員 短い期間の中で、イベントという形で成功というところまで持って行くことができ、皆の力はすごいな、と感じている。基幹となる多摩総合医療センターの会場で、医師を含めた交流が出来たことに意味がある。

皆と話をしていると、多摩総合医療センターの医師が、在宅ではどの程度出来るのか、逆に、地域の医師が、ターミナルや医療度の高い方をどの位診ているのか、等、在宅で出来る事、せねばならないことが中々伝わっていかないと感じた。顔が一部見える機会となったが、お互いどの様な思いで仕事をしていて、お互い何が出来るのか、病院の医師は、地域で診るって大変では、と好意で言ってくれる場合もあるし、在宅の医師も、大変そうだから入院しなよ、と良かれと思っ言われるところもあると思うが、そうではなく、こういったサポートが出来ます、という出来ることをお互いに、見える化して行く環境を増やしていくことが大切であると感じた。

篠崎副会長 私も準備には参加できなかったが、当日を見ていると、とても上手くいき、とてもご苦労があったと感じた。これからの取組みということで、いくつか語られていたと思うが、今日の感想を参考にしながら、今後の企画を考えていって欲しい。将来的には、当事者の参加であったり、臨床の方たちがもっと地域を知るといった面でも、広げ

ていけたらなと思った。

事務局 山岡委員から、訪問介護員の出席が少ないという意見があったが、もし、ケアマネジャーの連絡会や、訪問介護の集会等にて、ワールドカフェを行った様子を市からアナウンスしていただく機会を設けていただければ、次回以降の参加者も増えていくと思う。そうした会があれば、お声かけいただければと思う。3師会にも出向いていくので、お声かけいただければと思う。

篠崎副会長 今回の「楽しかった」という思いを、それぞれの立場でも広めて言っていただけると、次の参加者も増えると思う。

(4) 緩和ケアカンファレンスとの協働等について

事務局 今回、100人の集いについて、多摩総合医療センターの緩和ケアカンファレンスと共催でおこなったが、今後、緩和ケアカンファレンスとの協働について、どの様に行っていくか、ご協議いただきたい。また、緩和ケアカンファレンスで症例検討会を予定しているという案内が来た。日程は4月22日(火)19時から、グリーンプラザで行われる。コメンテータは井手医師ということで、どの様な症例を出すかということは、まだ決定していないということであったが、参加者対象者は今回の100人の集いと同じ対象者ということになっている。

緩和ケアカンファレンスは、イベントの時に多職種連携するだけではなく、その企画の段階から多くの職種に関わっていただき、その中でも連携を図ることを目的としているカンファレンスである。共催に当たっては、委員の皆様にご協力いただかないと難しい部分も有ると思うが、その点も含めてご協議いただきたい。

篠崎副会長 緩和ケアカンファレンスとの協働ということで、今後の協働の仕方ということで、ご意見はあるか。

宮田委員 協働の仕方というのは、例えば、イベントのみで共催していくのか、緩和ケアカンファレンスの定例会に合同参加ということにしていくのか、事務局として関わり方の候補はあるのか、「在宅療養」というと、認知症、ターミナル、医療度の高い長期療養の方、介護力の無い方等、様々な要素が入ってくると思うが、「緩和ケア」というと、在宅療養の中の一部ニーズのある方となると思うので、協議会の目的と関係無いわけではないが、関わり方の候補や形があるのであれば、教えて欲しい。

事務局 形は無いが、イベントや研修等を行うにあたっては、対象者が同じであるため、共催した方がいいとは思っている。共催の仕方について、緩和ケアカンファレンスでは、委員の皆さんと準備の段階から関わら

なければならない。その点について、企画・会場準備という形からご協力いただけるのであれば、そのような形での共催になると思うし、それが難しいのであれば、イベントの案内のみ事務局が行って行く等、役割分担で関わりは出来ると考えている。

篠崎副会長 緩和ケアカンファレンスの目的と、こちらの目的と重なる部分もあるし、違う部分もある。重なる部分については、協力し合ってやっていくのはいいと思うが。協力の出来る範囲の中で協力していく、という程度でよろしいか。本日欠席である会長の意見も聞いてということでもよろしいか。

松尾委員 緩和ケアについては、杏林大学病院からスタートし、その後、多摩総合医療センター中心となった。緩和ケアは、多摩総合医療センターや大きい病院で入院しているがん患者を在宅に移行していく上で、どの様に対応していけばいいのか、というのが主の目的であった。ターミナルまで見ていくのか、急変時のみ多摩総合医療センターにお願いして、疼痛コントロールしてもらおうか、といった話が初めである。そういった意味では、方向性がずれてきていると思っているが、緩和ケアを行なう医師となると人数が少なくなるし、多摩総合医療センターの医師との関係も深く持たなければならない。一部で重なる部分があるかもしれないが、その部分をはっきりさせていったほうがいい。

篠崎副会長 共催の目的をお互い確認していくことが大事だと感じた。基本的には、協力しないということでは無いが、協力の仕方等について、これから会長も含めて検討していくので、よろしいか。

事務局 今後の共催については、その都度、協議会で協議させていただく。今回の症例検討については、事例についての検討ということであるため、多職種で勉強になる部分が多いと思う。100人の集いと同じように、府中市側で、介護職、福祉食にお声かけさせていただく形でお手伝いして行こうと思っているが、よろしいか。

篠崎副会長 どの様なことを行うのか、ということがこのチラシの中でもう少し分かるといいと思うのだが。

事務局 詳細まではまだ決まっていないのだと思う。しかし、症例については、緩和ケアに限ったことではないと伺っている。

篠崎副会長 緩和ケアの症例ということになると、どうしようかと考える方もいらっしゃるかもしれない。

3 その他

事務局 今回が平成25年度最後の協議会となる。次回、平成26年度第1回の協議会の日程調整について、候補日を教えて欲しい。4月7日（月）までにご回答いただきたい。

また、平成26年度につきましても、委員の皆様におかれましては引き続きどうぞよろしくお願いしたい。また、市役所にて人事異動があったため、報告する。

芦川部長 昨年10月の第1回目に参加させていただいたとき、とても良い雰囲気スタートが切れ、また、回を重ねるごとに、雰囲気も深まったという印象を受けている。ワールドカフェ等のイベントを通じて更に深まったのではないかと感じている。在宅療養環境整備推進事業の目的としては、医療と介護の連携と、在宅療養の環境整備である。一つの医療と介護の連携については、もしかするとほぼ完成しているのではないかと感じている。この会の雰囲気を地域に広げていくことで、ある程度、医療と介護の連携が進んでいくように感じている。もしかすると、医療と介護の連携の敷居や壁というものは、我々が自分たちで作ってしまっているだけで、すでに解消されている部分もあるのではないかと感じている。会の雰囲気をいかに地域に広めていくかによって、医療と介護の壁が解消できる気がしている。

在宅療養の環境整備ということについては、課題も多くあると思うが、この雰囲気を大切にしながら、一つ一つ具体的な仕組みづくりを協議会を通じて作っていかれたらと思っている。現在、平成27年度から、平成32年度までの福祉計画と、介護保険計画を同時に作っている。その中に、在宅療養環境整備の一部分でも表現ができればと思っている。

今年度最後の会議ということで、これまでのお礼を申しあげたい。また、平成26年度も引き続きお願いしたい。

人事異動について、これまで福祉に関わり、良い経験をさせていただいた。今度、財政ということで、予算的なことを司っていくことになるが、これまで行ってきたことが今の時代に合っていないものについては、見直していき、今必要なことにお金を使っていくことが必要と話をしている。在宅療養環境整備推進協議会から発信されるものに是非、お金の繋がっていくような部分があれば、協力していけると感じている、これからは是非よろしくお願いしたい。有難うございました。

4 閉会

篠崎副会長 では、今年度最後の協議会であったが、また、このメンバーでいい雰囲気で議論が出来ればと思っている。

以上